

魚病診断結果

田中真二・羽生和弘・中村砂帆子・宮本敦史

目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減をはかる。

方法

平成26年4月～平成27年3月に水産研究所、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった魚について、病気の診断を行った。

結果および考察

総診断件数は232件（海産魚231件、淡水魚1件）であった。魚種、魚病別の診断結果を表1～4に示す。マダイで多かった病気は、細菌病ではエドワジエラ症とエピテリオシスチス病、寄生虫病ではビバギナ症、住血吸虫症および心臓ヘネガヤ症であった。ハギ類では、ビブリオ病、レンサ球菌症およびミコバクテリア症が多発した。シマアジでは、8～9月に吸虫性旋回病が確認された。マアジでは、7～12月にビブリオ病とレンサ球菌症が多発した。

表1. マダイの診断結果

病名	月別診断件数												計	
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
マダイイトウイルス病	0					1	1							2
エピテリオシスチス病	0		1	2	3	3					1	1	1	12
滑走細菌症	0	1	1	1						1				4
ビブリオ病	0	1	1	1							1	1		5
エドワジエラ症	0				3	3	1							7
	1			1	4	4	2							11
	2			1	1									2
トリコリナ症	0											1		1
スクーカ症	0												1	1
心臓ヘネガヤ症	0			4	2	1								7
フロロイシカス症	0												1	1
ビバギナ症	0			1	2	3	3						4	13
	1	1												1
住血吸虫症	0					3	1							4
	1		1		1	1	2							5
クバカク頭頭虫症	0			1						1	1	1		4
	1						1							1
皮膚カクガス症	0				1									1
体表潰瘍	0												1	1
低水温障害	0											1		1
	1												1	1
不明	0			1							2			3
	1		1										1	2
	2					1								1
	3												1	1
計		3	5	4	7	23	21	7	0	0	9	8	7	94

表2. ヒラメの診断結果

病名	月別診断件数												計	
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
滑走細菌症	0		1											1
ビブリオ病	0						1							1
バクテリア症	0									1				1
エドワジエラ症	0						1							1
	1						4							4
アミュージニウム症	0					1	1							2
トリコリナ症	1		1											1
スクーカ症	0		1	1										2
白点病	0							1						1
環境性疾病	0							1						1
不明	1	1												1
計		1	3	1	1	8	1	0	1	0	0	0	0	16

表3. ハギ類の診断結果

(魚種)	病名	月別診断件数												計	
		年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
(カワハギ)	ビブリオ病	0							1					1	
		1				5	3	9	3					20	
	レンサ球菌症(α)	1						1						1	
	レンサ球菌症(β)	1						1	1	1				3	
		2						1	1					2	
	レンサ球菌症(非α, β)	1					1							1	
		2					1							1	
	ミコバクテリア症	0								1					1
		1							2	5	3				10
		2							1						1
ベニカス症	0									1				1	
	1									4	3			7	
	0									1				1	
計		0	0	1	7	9	20	13	0	0	0	0	0	50	
(ウマツラハギ)	ビブリオ病	0			1	1	1					1		4	
		1						1						1	
	不明											1	1	2	
	レンサ球菌症(α)	1			1	1	1							3	
	レンサ球菌症(β)	1							1	1	1			3	
	不明												1	1	
	未同定細菌感染症	0											1	1	
	クリプト症	1									1				1
	ベニカス症	1			1	1				1					3
	エラニ症	0									1				1
計		0	0	3	3	2	1	2	3	1	3	0	2	20	

主要病原菌の薬剤感受性試験結果を表5に示す。エドワジエラ症およびレンサ球菌症原因菌の感受性は良好であった。一方、ビブリオ病原因菌では薬剤耐性菌が多かった。

以上の魚病診断とは別に、マダイで4件、トラフグで1件およびマハタで1件の計6件の健康診断依頼があった。また、コイの死亡事例2件についてコイヘルペスウイルス病の検査を行い、いずれも陰性であった。アワビのキセノハリオチス症については、5～12月に親貝26件、10～3

月に種苗5件の計31件について原因菌保有検査を行い、全て陰性であった。ヒラメのクドア症 (*Kudoa septempunctata*) については、4月に放流種苗の検査を1件行い、陰性であった。

表4. その他の魚種の診断結果

病名	月別診断件数												計	
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
(マハタ)														
脳粘液胞子虫症						1								1
ネバネバ症	0										1			1
不明	2						1							1
マハタ小計	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	5
(クエ)														
ウイルス性神経壊死症	1			1										1
クエ小計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(ブリ)														
リン球菌症(α)	1				2									2
ペテリ症	0								1					1
低水温障害	0													1
不明	1					1								1
ブリ小計	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6
(シマアジ)														
ビブリオ病	1				1									1
不明	2	1												1
リン球菌症	1				1									1
不明	2				1									1
トリコニア症	0					1								1
吸虫性旋回病	0					4	1							5
台風による死	1								1					1
不明	0			1	1	1								3
シマアジ小計	1	0	1	7	6	1	1	0	0	0	0	0	0	17
(マアジ)														
滑走細菌症	2				1									1
ビブリオ病	0				1		2	1						4
不明	1						2							2
不明	2				1									1
リン球菌症(α)	0				1		1	1	1					4
不明	1						1							1
餌料障害	0								1					1
マアジ小計	0	0	0	4	0	0	6	2	2	0	0	0	0	14
(クロマグロ)														
筋肉クドア症	3						1							1
クロマグロ小計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
(トラフグ)														
滑走細菌症	2													1
白点病	1								1					1
ペテリ症	0						1							1
環境性疾病	1													1
不明	2													1
トラフグ小計	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	5
(カサゴ)														
鯉アヘバ [®] 症	0						1							1
カサゴ小計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(メガイアワビ)														
不明	0				2									2
メガイアワビ [®] 小計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
(アユ)														
冷水病	0					1								1
アユ小計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1	0	4	12	11	4	10	2	5	1	0	3	53	

表5. 主要病原菌の薬剤感受性

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキソリチン					13
ホスホマイシン			1		12
オキソリン酸					7
アンピシリン					7

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (マアジ, シマアジ, ブリ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン		1			9
塩酸オキソリチン					6
フロルフェニコール			1		8
ピコザマイシン	3				3
スルファモノメトキシ	3				3

β 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (ハギ類)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン		1			5
塩酸オキソリチン					7
フロルフェニコール			1		1
チアンフェニコール					4
アンピシリン					6
オキソリン酸	3				3

ビブリオ病 原因菌 (ハギ類)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキソリチン	17				9
オキソリン酸	2	3	12	3	20
エリスロマイシン	10	7	2		19
リンコマイシン	8				8
フロルフェニコール	3	1	1	6	11
チアンフェニコール	7		3	11	21
アンピシリン	20				20
ピコザマイシン	2	2			4
スルファモノメトキシ	11	1			12
スルフィソゾール	5	2	1		8

ビブリオ病 原因菌 (マアジ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキソリチン	1	4			2
オキソリン酸			1		1
エリスロマイシン	1	4			5
フロルフェニコール		2	2	1	5
チアンフェニコール	4				4
アンピシリン	3				3
ピコザマイシン	1	1			3
スルファモノメトキシ	3		1	1	5